

助成事業完了報告書

日本財団 会長

報告日付：2013年4月3日

事業ID：2011969185

事業名：

がたモニ江戸前干潟モニタリングに  
よる市民参加・持続可能な保全活動  
の構築

団体名：NPO法人生態工房

代表者名：安部邦昭

TEL：03-3331-5004

FAX：03-3331-5004

事業完了日：2013年3月20日

---

事業費総額 2,202,736円 (事業の実施にあたり生じた費用の総額(支払台帳の合計金額))

自己負担額 252,736円

---

助成金額 1,950,000円 (事業実施のために使った助成金の総額)

---

【活動計画】

1. 干潟の生き物調査

期日：5月 回数：1回 参加者(一般市民、親子連れ、学生)

生物の生息環境としての干潟の現況を把握するため、干潟の底生生物のモニタリングを行う。調査は専門家の協力によって行い、市民の調査力の向上を図る。この調査結果は干潟の生物環境を知り、保全するための貴重な資料であることから、観察会、保全活動に活用できるよう分析、整理を行う。

2. 調査型自然観察会の実施

期日：4月～3月 回数：7回 参加者(一般市民、親子連れ、学生)

干潟の生き物や環境の調査および関連した内容の自然観察による調査型観察会の実施。

3. 入門編自然観察会の実施

期日：4月～2月 回数4回 参加者(親子連れ、一般市民、学生)

広く干潟の環境や生物を知るための入門編としての観察会を実施する。

#### 4. 干潟の修復・維持活動

期日：5月～3月 回数：6回 参加者（一般市民、学生、企業ボランティア）

干潟に進出したヨシを広範囲に刈り取り、できるだけ広い面積の干潟を復元し、干潟で採餌するシギ、チドリ類、トビハゼなどの希少種の生息環境を保全する。

#### 5. 意義と成果を伝える

ヨシ刈作業による干潟の健康状態の回復を調査を通じて明らかにし、がたモニ通信（2回発行）を通じて広報する。通信では他に生き物の解説や観察会の様子を掲載し広報に努める。公園が開催するフェスティバルや、自然環境の復元や保全がテーマのイベントへ参加し成果の還元と参加者の新規獲得を行う。

---

### 【事業の実施状況】

#### 1. 干潟の生き物調査

干潟に生息する生物の現況を把握するために、専門家を招き、底生生物のモニタリング調査を行いました。

実績：開催回数1回 参加者：12名

活動項目	実施日時	参加者数
底生生物調査 葛西臨海公園鳥類園下の池	5月18日	12名

#### 2. 調査型自然観察会の実施

期日：4月～3月 回数：6回 参加者：計63人（一般市民、親子連れ、学生）

干潟の生き物や環境の調査および関連した内容の自然観察による調査型観察会の実施しました。

活動項目	実施日時	参加者数
干潟の生物調査	6月17日	25名
干潟の生物調査（葛西臨海公園下の池）	4月21日	13名
〃	5月19日	4名
〃	9月15日	6名
〃	10月20日	9名
干潟再生モニタリング	11月17日	中止
干潟の生物調査（葛西臨海公園下の池）	3月16日	6名

#### 3. 入門編自然観察会の実施

期日：4月～2月 回数5回 参加者：計100人（親子連れ、一般市民、学生）

広く干潟の環境や生物を知るための入門編としての観察会を実施しました。

活動項目	実施日時	参加者数
干潟の生きもの観察会	5月20日	28名
干潟のトビハゼウオッチング	7月1日	31名
カニカニ観察会	9月2日	18名
干潟の野鳥観察会（晩秋編）	11月17日	3名
干潟の野鳥観察会（早春編）	3月20日	20名

#### 4. 干潟の修復・維持活動

期日：5月～3月 回数 14回 参加者：計90人（一般市民、学生、企業ボランティア）

干潟に進出したヨシを広範囲に刈り取り、できるだけ広い面積の干潟を復元し、干潟で採餌するシギ、チドリ類、トビハゼなどの希少種の生息環境を保全する活動を行いました。

実績：開催回数12回 参加者：84名

活動項目	実施日時	参加者数
シギが来る干潟づくり	4月21日	13名
〃	5月19日	4名
〃	7月21日	4名
〃	9月15日	6名
〃	10月20日	9名
〃	3月16日	6名
コチドリの営巣環境の整備	5月19日	11名
〃	6月2日	3名
〃	6月16日	4名
〃	9月15日	15名
〃	10月20日	3名
〃	12月1日	中止
〃	2月16日	中止
〃	3月16日	6名

#### 5. 意義と成果を伝える

ヨシ刈作業による干潟の健康状態の回復を調査を通じて明らかにし、がたモニ通信（2回発行）を通じて広報を行いました。通信では他に生き物の解説や観察会の様子を掲載し、広報に努めました。公園が開催するフェスティバルや、自然環境の復元や保全がテーマのイベントへ参加し成果の還元と参加者の新規獲得を行いました。

##### ① 広報誌の作成

活動を周知し参加する仲間を増やすために、活動の様子や干潟の生きものを掲載した広報紙

を発行し、参加者や地域施設等に配布しました。

5月 がたモニ通信 第6号 300部

9月 がたモニ通信 第7号 300部

## ②出展など

シンポジウムや各種のフェスティバルに出展し、活動の広報を行いました。

谷津干潟の日 2012年6月9日、10日出展

GEOC 環境ボランティア見本市 2012年7月14日出展

ジュンク堂池袋店 パネル展示 2012年7月30日～9月9日

ジャパンボードフェスティバル2012年 11月3日、4日出展

エコプロダクツ2012年12月13日、14日、15日出展

## 【事業目標の達成状況】

### 1) 参加者数

#### ○干潟の生き物調査

参加者は12名でした。

#### ○調査型自然観察会の実施

本観察会は、本年度から開始した事業です。干潟の保全活動とあわせて調査を行うもので、参加者の活動が生き物の棲息環境にどのように影響するかを考えるきっかけとしました。環境変化は短時間では起こらないことを毎回説明し、活動の持続性の重要さの説得材料ともなりました。参加者数は全体で63人でした。

#### ○入門編自然観察会の実施

入門編自然観察会は、開催回数を5回にしました。昨年度は震災の影響等もあり、特に子ども連れの参加者が減少する傾向が見られましたが、今年度は干潟の調査などにも定員を上回る参加がありました。特に、年間を通じて参加する親子連れや、毎年参加する親子連れ等がみられ、活動自体が浸透していました。

#### ○干潟の修復・維持活動

干潟の修復・維持活動では、自然環境復元協会、専門学校の学生等、生態工房ボランティアの参加があり、計画人数を上回る参加がありました。特に、学校等との連携によって、コンスタントに学生の参加が得られたこと、他団体の活動（自然環境復元協会）との協働、東京ボランティア活動センターとの連携などがあったことから、ボランティアの参加者も増加しました。

### 2) 活動成果

#### ○専門家を交えたモニタリング

2010年、2011年度に引き続き、2012年度も東邦大学と協力し、干潟の生きものの調査を行った。本年度は葛西臨海公園鳥類園下の池を対象とし、昨年度に引き続きデータの採取を行いました。

#### ○干潟の保全作業

市民の参加を得ながら、ヨシ原の刈り取りを継続して行いました。その結果、作業開始前に

は観察されなかった生き物が観察されるようになるなど、干潟の復元が進んでいます。また、砂礫地の除草作業を行い、シギやチドリの営巣地をつくる作業においても、セイタカシギの営巣が確認される等、一定の成果があがっています。

### 3) 活動趣旨の周知

江戸川区の後援を得、江戸川区報への掲載を行いました。

各イベントやシンポジウムにブース出展し、活動の広報を行いました。また、ウェブ上のイベント広報、雑誌などを活用した広報、新聞誌上での行事開催記事の掲載等を通じ、より広範な広報を行いました。

### 4) 活動費の確保

昨年度に引き続き、干潟の野鳥、カニをデザインしたグッズを制作し販売を行いました。グッズは、活動への参加者だけではなく、当会の他の活動や出展等の機会を通じて販売をおこない、活動の意義の周知に用いるとともに、売り上げは干潟の活動の資源としました。

3年間の活動期間で、継続して参加する方も増えてきました。また、東京ボランティアセンターや自然環境復元協会、学校法人タイケン学園日本ペット&アニマル専門学校などの団体と連携し、活動を実施しました。またこのような他機関を通じた参加者の増加が見られます。参加のしやすさ（曜日や時間、対象年齢、装備等）、開催情報の広報、活動の意義が実感できるような設計、さらに、展示やイベント出展などを通して、活動の趣旨・理念、調査結果などを発信したことが効果的でした。

## 【事業成果物】

### 1) 市民参加型モニタリング

成果物：底生生物調査結果（1部）

### 2) がたモニ通信

活動の成果を広く広報するため、「がたモニ通信」を作成し、行事参加者、関連機関へ配布し、周知をはかりました。

成果物：がたモニ通信 6、7号（1部ずつ）

### 3) webの更新

がたモニの活動全体を広報するwebページの更新を行いました。

成果物：[http://www.eco-works.gr.jp/0041\\_4\\_1.html](http://www.eco-works.gr.jp/0041_4_1.html)

以上

(様式)

2/2

収支計算書

(2012年4月1日から2013年3月31日まで)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	受入済額	未調達額	備考
日本財団助成金収入	1,950,000	1,950,000	1,950,000	0	
自己負担(以下合計)	220,000	252,736	252,736	0	
収入合計	2,170,000	2,202,736	2,202,736	0	

支出の部

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
人件費支出	323,000	316,700	316,700	0	
諸謝金支出	240,000	230,000	230,000	0	
旅費交通費支出	162,440	179,074	179,074	0	
印刷製本費支出	49,600	22,210	22,210	0	
委託費支出	48,668	75,900	75,900	0	
消耗什器備品費支出	275,000	153,492	153,492	0	
事務局人件費支出	972,000	1,129,000	1,129,000	0	
広報費支出	60,000	50,000	50,000	0	
通信運搬費支出	29,500	20,160	20,160	0	
事業管理費支出	18,000	26,200	26,200	0	
端数調整	-8,208				
支出合計	2,170,000	2,202,736	2,202,736	0	